

# 社会福祉法人 仙台市社会事業協会

## 《令和7年 新年のご挨拶》

P2. 会長、事務局長のご挨拶

### ～高齢者福祉事業～

P3. 養護老人ホーム 仙台長生園  
特定施設 仙台長生園

P3～6. 仙台楽生園ユニットケア施設群  
特別養護老人ホーム仙台楽生園  
住宅型有料老人ホーム創快館  
グループホーム楽庵  
楽園デイサービスセンター  
葉山地域包括支援センター  
葉山ケアプランセンター  
葉山ヘルパーセンター

P7. 沖野老人福祉センター・沖野居宅介護支援センター

### ～児童福祉事業～

P8. 幼保連携型認定こども園仙台保育園

P8. 柏木保育園

P9. 富沢わかば保育園

P9. 幼保連携型認定こども園中山保育園

P10. 母子生活支援施設 仙台つばさ荘

P10. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

### ～教育事業～

P11. 仙台理容美容専門学校

## 《 令和7年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶 》

会長 植木 祐子

新年のお慶びを申し上げます。

去年は元日の能登半島地震とそれに続く羽田空港の旅客機衝突事故と、大変痛ましい出来事が重なりました。未だ避難を余儀なくされている方々に、心よりお見舞い申し上げます。

当法人においては、会長はじめ理事や施設長等の運営体制が大きく変わり、変革の年となりました。令和5年に策定した中長期計画の2年目にあたり、複数の施設で大規模修繕工事による建物の維持管理と長寿命化を図った他、法人として初めて特定技能実習生の採用と幹部職員対象の研修等、将来を担う人材の確保と育成に力を入れ取組んだ1年でした。

3年後に迎える法人創設100周年とその先の未来に向けて、複雑化・多様化する福祉ニーズと、地域社会の変化に対応していけるよう、児童・高齢者・教育の各部門がしっかりと手を携え、一つ一つの課題にチャレンジしていきたいと思っております。

事務局長 小野寺 信也

新年あけましておめでとうございます。

法人の基本理念、経営方針を改めて読み返しました。基本を忘れることなく仕事に取り組む決意を新たにしました。専門家からのアドバイスを基に具体的な数字的の目標を示し、コロナ禍で落ち込んだ経営の改善に努めます。

今年は、大きな転換の時と捉えています。柏木保育園、つばさ荘の建て替え新築工事の他仙台理容美容専門学校の大規模改修等に着手して行きたいと考えております。また、介護施設の職員不足が続いており、保育士についても採用が困難な状況にあります。ホームページ等を中心に広報活動に尽力します。

経営状況を安定化させるため、辻本郷税理士事務所等の専門家の意見を取り入れ、経営状況を分析し適切な予算配分、人員配置を行い経営の健全化を図ります。また、他法人が行っているように、施設会計から本部会計へ効率的に繰り入れが行われる仕組みを作り、現金の流れを正常にしなければなりません。今後、解体、建て替を行う際、潤沢な資金が必要になります。施設会計から、本部会計に繰り入れ、蓄えた資金を法人本部から、建て替え、修繕費用として施設へ支出できる仕組みを作っていきます。

いずれにしても、法人の役職員が一丸となって取り組んでいかなければなりません。今まで以上の協力をお願いいたします。

## 養護老人ホーム仙台長生園

### 特定施設仙台長生園

園長 小船 順子

新年あけましておめでとうございます。

2024年の始まりは元旦の能登半島地震、2日の飛行機事故と波乱の幕開けとなりました。

仙台長生園も、長期の措置者数は減少の一途をたどり、相も変わらず厳しい運営状況と向き合う1年となりました。

ただ、措置を伴わない契約入所に関しては順調で、養護老人ホームのサービスを必要としてくださる地域の高齢者はまだまだたくさんいらっしゃることを実感し、仙台長生園の存在意義を確認させていただく機会となりました。

その他、能登半島地震の応援派遣として芦野理華主任介護士が参加。芦野主任だけでなく報告を受けた職員たちにとっても学びの多い経験となりました。

2025年も、利用者様の笑顔を励みに、職員みんなで成長できる年を目指します。

本年もよろしく願いいたします。

## 仙台楽生園ユニットケア施設群

総括施設長 植木 祐子

あけましておめでとうございます。

令和6年はユニット館建設から約20年が経過し、給湯設備他、相当な経費を掛けて大規模修繕工事を実施致しました。間もなく築40年を迎える本館についても建物・設備の老朽化が進んでおり、将来的な建替え等具体的な計画の下に進めていく必要があります。

各事業所の共通課題として、人材確保と育成の課題があります。給与や福利厚生面だけでなく、職員個々が持っている力を存分に発揮し、互いに支え合いながら相互に成長を促せる魅力ある職場作りが求められます。

また、仙台市内では多様なサービスの増加、施設整備が進み、地域のニーズも刻々と変化しています。施設群内で連携を図ることはもちろんですが、地域のニーズを的確に捉え、応えていく適応力が必要です。変化を恐れず、しなやかさと逞しさをもって取組みたいと思います。

## 特別養護老人ホーム仙台楽生園

### 園長 植木 祐子

昨年はインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症が本館多床室で発生。面会用の区画で隔離対応し、感染拡大を最小限に留め2週間程度で収束しましたが、日頃からの感染予防の徹底と、発生した際の迅速な対応・適切な判断の重要性を再確認する機会となりました。

一方で、コロナ禍で行っていた制限は緩和し、個室の方には換気の上で居室内で時間の制限なく面会いただいた他、外出・外泊も再開し、あるべき日常を取戻せるよう努めました。今後は地域のニーズにも応えボランティア受入れや交流の機会等、更に充実できるよう取り組んでまいります。

当園においても人材確保は大きな課題ですが、昨年12月ミャンマーから特定技能実習生2名を採用しました。母国を離れ、日本語や介護の勉強に励む彼女達に刺激を貰いながら、より良いケアを目指し取り組んでまいります。

## 住宅型有料老人ホーム 創快館

### 施設長 植木 祐子

令和6年は、ご利用者様、職員共に新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症に誰一人感染することなく、1年を通して皆健やかに過ごすことができた年でした。

夏祭りや敬老会、文化祭等の季節の行事も趣向をこらして楽しく開催することができた他、ペランダで育てる野菜の収穫や、手芸、飾り物づくり等、少人数で楽しみながらできる活動にも取り組みました。

ご利用者様の中には、荒巻リフレッシュクラブや葉山オレンジカフェ等、敷地内で開催される活動に定期的に参加し、積極的に地域の皆様と交流を楽しむ方もいらっしゃいます。これからもご利用者の皆様が、毎日をいきいきと笑顔で過ごしていただけるよう、サポートしてまいります。

## グループホーム楽庵

### 施設長 石井 紀之

明けましておめでとうございます。

グループホーム楽庵は、長く仙台楽生園ユニットケア施設群の発展に寄与していた施設長が勇退し、令和6年4月より新たなスタートとなりました。就任当初から管理者、職員の協力もあり利用者様が日々穏やかに・健やかに過ごせるよう、出来る限りの支援をしてまいりました。

今年は、利用者様一人一人の想いを尊重し、より良い暮らしとなる飛躍の年にしたいと考えておりますので、変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

## 楽園デイサービスセンター

所長 加藤 直真

新年あけましておめでとうございます。皆さまと無事に新年を迎える事ができ、大変うれしく思います。昨年を振り返ってみると、コロナウイルスの感染が終息しない中、能登地震に始まり、政治資金問題、物価の上昇、事業所における稼働率の低下など、良き話題より胸や懐が痛む出来事を思い出してしまいます。

そして迎えた 2025 年。

皆様もご存じの通り、今年は何年です。蛇というと、たびたび嫌われ者扱いをされがちな生き物ですが、脱皮を繰り返して成長することや、その生命力の強さから再生や復活等の象徴とされ、縁起が良い生物とされることもあります。私達もこの年にあやかって、大きな困難に直面しても蛇に見込まれた蛙のように萎縮せず、チャンスがあれば長蛇を逸することなく、弁財天の化身と言われている白蛇の良い運気を賜りながら、2025 年は、飛躍の一年にしたいと思います。

## 葉山地域包括支援センター

所長 坂 幸子

新年、明けましておめでとうございます。

令和 6 年 3 月で長くセンター運営に携わった佐々木前所長が退職となり、新しい体制でスタートした年でした。センターでの相談内容としては、8050 問題、精神疾患を抱えたご家族への対応など、多種多様な相談が増加傾向にあります。地域や関係機関との連携やネットワークづくりに努め、さらに認知症施策の推進を図ってまいります。今年度は、その一つとして、初めて荒巻小学校・通町小学校様のご協力のもと、小学 3 年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催させていただきました。

スタッフ一同、「ここで暮らしていきたい」と思えるような地域づくりを目指してまいりますので、本年もよろしく願いいたします。

## 葉山ケアプランセンター

所長 植木 祐子

令和6年度は、介護保険制度改正に伴い介護予防支援事業の指定を受け、地域包括支援センターからの委託と併せ、直接契約による介護予防支援が開始されました。

また制度改正に伴う事項として、居宅介護支援事業所においても、BCP作成と研修・訓練が求められることとなり、近隣の居宅介護支援事業所やユニットケア施設群内の事業所と情報共有、連携しながら取り組みました。今後は、仙台市のハザードマップやご利用者様の個別の状況を踏まえた上で、安否確認ルートやマップ作り等にも着手し、ブラッシュアップしていきたいと思えます。

この数年間、管理者以下4名体制で運営してまいりましたが、新年度においては介護支援専門員を1名増員し、人員体制を強化したいと考えております。ユニットケア施設群内の各事業所を繋ぐ要として、更なるサービスの質向上を目指し取り組んでまいります。

## 葉山ヘルパーセンター

所長 植木 祐子

令和6年度の介護保険制度改正においては、訪問介護サービスが唯一減額報酬改定となっており、非常に厳しい状況を強いられることとなりました。その為、事業所としての増収を目指し、訪問介護事業において特定事業所加算を取得致しました。専門性の高い人材の確保、サービスの質の向上を目指し、すべての訪問介護員及びサービス提供責任者に対し個別の研修計画を作成し取り組んでおります。

コロナ禍の期間中控えていた、外部研修や調理実習を再開した他、仙台理容美容専門学校の先生方にご協力をいただき、ラボを会場に洗髪に関する研修を実施致しました。講師の先生には、ご多忙の中、やさしく丁寧に実技やプロのホスピタリティも含めご指導いただき、楽しく興味深く学ぶことができました。

これからもチーム一丸となって個々の実践力向上と、地域の皆様から選ばれる事業所を目指し取り組んでまいります。

## 沖野老人福祉センター

館長 天野 博美

あけましておめでとうございます。

沖野老人福祉センターは、新たな指定管理期間に入り、気持ちを新たに日々の業務に取り組んでまいりました。

沖野老人福祉センターの目標は「地域に住まわれる方の、健康寿命の延伸」です。そのために、何が効果的なのか、皆さんに楽しく来館していただけるにはどうしたらいいのか等々、職員がみんなで意見を出し合いながら事業を実施しています。昨年は、新しい取り組みとして「認知症カフェ」を始めました。名称は「おきらくカフェ」⇒「沖野(老福)に行って楽しくなる、誰でも気楽に参加できる」をコンセプトに、毎回参加される方々が楽しめるように、そして不安なことを相談できる環境作りを心掛けています。

今年は、内容をさらにブラッシュアップさせていきたいと考えています。

認知症に関していえば、高齢者事業とは切り離して考えることができない課題となっています。「認知症になっても安心して過ごすことのできる沖野」を目指して、町内会の福祉委員会とも力を合わせながら、施設としてできることを、コツコツと続けてゆきたいと考えています。

高齢者の閉じこもり予防、認知症予防、フレイル予防の一環を担う施設を目指してゆきますので、本年もよろしく願いいたします。

## 沖野居宅介護支援センター

所長 天野 博美

昨年の大きな出来事の一つが、男性ケアマネの増員でした。管理者の一人ケアマネの状況が長く続いていましたが、経験豊富なケアマネを迎えて、活気が出てきたように感じます。令和6年度の制度改正において、小規模事業所には厳しい状況は変わりなく続いていますが、ケアマネが増えたことで、事業所内の雰囲気は良い方向に変化しました。

また、コロナ禍でオンラインによる研修が多く行われるようになり、今でも継続されている為、時間を有効に使いながら研修を受けることができ、外部研修、オンラインでの研修など、多く参加し研鑽を積むことができています。

今年は利用者を増やすことを目標に掲げ、4月を目安に介護予防支援の指定を受ける予定で、包括支援センターとの繋がりを強化し、利用者増に繋げていきたいと考えています。

今年も、沖野居宅介護支援センターは、担当するご利用者様の在宅での生活が少しでも長く続けられるよう、ご家族が無理せずに介護が続けられるように、お手伝いしてまいります。

## 幼保連携型認定こども園仙台保育園

園長 土屋 志津子

あけましておめでとうございます。

去年は新型コロナウイルス感染症に関する制限が緩和されて、日々の保育や行事を広げることができました。感染症の対策を引き続き行いながら保護者に参加して頂いた行事は、とても楽しかったと保護者からも良い評価を受けています。

仙台保育園の目標は、◎未来を担う子どもの最善の利益を考慮し、成長の喜びを保護者と共有する ◎家庭的な温かい雰囲気の中で一人ひとりを大切に、情緒の安定を図り、主体的に活動できるようにする としております。今年も職員一人ひとりがお互いを意識し合い、カバーし合い、つながりを大事にしながら子ども達と向き合って、これからも子ども優先、保護者に寄り添うという姿勢を忘れずにいたいと思っています。子ども達、保護者の方々、そして職員も笑顔あふれる1年となるようにと願っております。

今年もどうぞよろしくお願いいいたします。

## 柏木保育園

園長 高野 誠

新年明けましておめでとうございます。

今年も主役である子どもたちがワクワクして保育園生活を送れるよう職員一同、力を合わせて保育を進めてまいりたいと思います。

そして、新年の抱負として一番に思い描くのは新園舎の建て替え事業です。

去年は、一旦は延期となった老朽化施設対策整備事業による新園舎建て替えに向けてのエントリーを仙台市に再度行ったところ、事業採択されたと昨年末に連絡が入りました。今年の秋頃には工事が始まる予定で進む事でしょう。

保育園は、そこで過ごす子どもたちにとって快適に過ごせる場でなければなりません。そのためには、園長が中心ではなく実際に保育をすすめる保育士自身が中心となり保育環境を考えていかねばならないと考えます。どのように保育室を使い保育を進めていくのかをイメージ出来るのは保育士です。自分たちが考える保育を進めるにあたって保育環境はどうなのか？収納スペースは足りるのか？人任せにするのではなく、みんなで知恵を出し合い、納得できる園舎造りを進めていければと考えています。

今年もどうぞよろしくお願いいいたします。



## 富沢わかば保育園

園長 木村 裕子

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎え今年には災害、事故、事件など起こらないで皆様が笑顔で1年間過ごせますように願いたいですね。

保育園内部は数年前から少しずつ修繕を行っていますが、見学の保護者の方々からも好評をいただいております。定員数の割には園庭が広く、子供たちは思う存分遊びを満喫しています。又、近隣に散歩する場所が多くあり良い環境になっています。

昨年12月に防犯対策の一環として防犯カメラ4台を設置し、より安全対策を強化しました。常に安全を念頭に置きながら「今日、楽しかったね！また明日も笑顔で保育園に来たいなあ」と思えるような保育を行っていきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

## 中山保育園

園長 佐藤 由美

あけましておめでとうございます。昨年は幼保連携型認定こども園となり2年目、1号認定児の入園もあり認定こども園としての機能での運営ができ、園児数の変動もなく安定した年となりました。

2025年は保育園(所)を利用する子どもの数がピークに達し、それ以降利用者数は減少していくという予測が立てられています。変化している子どもを取り巻く状況をチェックしながら、子ども一人一人に寄り添い、それぞれの年齢の今を大切に教育・保育を心がけ、安心安全の中子ども達が豊かに過ごせる環境を作り、選ばれる保育園であるよう頑張っていきます。

今年も毎日が楽しい、嬉しいと保育園時代の幸せがたくさん感じられ、子ども達も保護者も職員も笑顔あふれる年にしたいと思います。

今年もよろしく願いいたします。

## 仙台つばさ荘

施設長 小船 正明

新年、明けましておめでとうございます。日頃より当事業へのご理解をいただきましてありがとうございます。

令和4年の改正児童福祉法により、こどもに対する家庭・養育環境への支援や、当事者であるこどもの権利擁護(意見表明等支援事業など)に関する環境整備が強化されてきております。母子生活支援施設は、都道府県社会的養育の推進計画に基づき、今後は高機能化・多機能化が求められることとなります。

仙台つばさ荘も今後の策定要領の趣旨を踏まえながら、今、生活している方々の安心で安全な居場所であり続けることを念頭に、職員一同これからも丁寧な支援を継続してまいりたいと思います。

## 仙台むつみ荘

施設長 石道 久子

新年あけましておめでとうございます。

母子生活支援施設は秘匿性の高い特徴を持っており、これまで地域との関りに踏み出せずにおりましたが、施設を知っていただくことで力を貸してもらえる、守ってもらえる事もあるのではないかと考えを改め、昨年より少しずつですが町内会活動への参加を始めました。

今年は桜ヶ丘地区の子育てに関する会議へも参加できるよう関係機関の方々へお願いしているところです。地域の方々に、もっともっと母子生活支援施設の機能や専門性を知っていただき、選ばれる施設となるよう尽力してまいります。

また、入所者の皆さんへ安心安全な生活を提供しながら、明るい雰囲気大切に、笑顔あふれる1年となるよう支援してまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 仙台理容美容専門学校

校長 中签 志保美

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、学生数減少で厳しい経営状況が続く中、教職員一丸となり学生募集、経費削減に努めてまいりました。コロナ禍後、すべての学校行事を前に戻すのではなく、新たなイベントと捉えて実施することで学生のモチベーションや学校のイメージアップに繋がっております。

お陰様で令和7年度生の充足率は目標の80%を超え86%となりましたが、定員に対する充足率は66%と厳しい状況であり、18歳人口は今後も減少し続けることは確実です。

昨年から行っております総合型選抜入試の導入・SENRIPIブランドの確立・学則変更等、事業活動収支差額をプラスにする為の対策をさらに推し進めるとともに、入口(高校生)と出口(業界)のニーズをしっかり受け止め、両者に求められる学校づくりを目指してまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



社会福祉法人 仙台市社会事業協会